



西中だより

第24号 令和5年12月22日(金)

学校教育目標 「知を磨き、豊かな心と たくましい体をもった生徒の育成」

発行：校長 寺田 是

生徒会選挙が行われました

立候補者の素晴らしい演説が印象的でした

先週の15日(金)に来年度の生徒会役員(会長・副会長)を選ぶための立会演説会と投票が行われました。2年生から5名の生徒が立候補しましたが、「西中をより良くしていこう」という思いで、立候補を決意した勇気とやる気に敬意を表したいと思います。

演説会当日は、会場となった体育館で、私も間近で各候補者の演説を聞きましたが、緊張している様子や息づかいとともに、熱い思いが伝わってきましたし、ピーンと張り詰めた空気を体全体で感じました。また、責任者による応援演説も候補者の人柄がよく伝わる内容でした。

全ての演説者が、自分の言葉で懸命に「未来の西中像」について訴える姿は壮観でしたし、演説の内容も素晴らしいものでした。目指す西中像だけでなく、それを実現するための具体的な方法についての提案もなされ、わくわくする内容ばかりでした。

今後、今回、立候補した5名の生徒を中心に新しい生徒会執行部が組織されます。3年生に贈る会の取組が初仕事となりますが、新しい生徒会執行部も、「誇れる西中」づくりをリードしてくれるだろうと強く感じています。



選ぶ側の生徒たちも立派でした

立候補した生徒の素晴らしさとともに、私が感じたのは、選ぶ側となった生徒(1年生、2年生、3年生)の立派な態度でした。真剣に演説に聞き入る姿が見られました。

その日のうちに行われた投票では、白票・無効票0という素晴らしい投票行動をとることができました。いずれも、全校生徒が未来の西中像について、真剣に考えたことの証だと思っています。「リーダーとフォロアーが一体となって、より良い西中づくりが行われそうだ」とうれしい気持ちになりました。

3年生が先頭に立って創ってきた「誇れる西中」を、さらに住み心地の良い学校にするために一人一人が自分にできることは何かを考え、取り組んでいきましょう。



「こうふ開府の日」関連イベントに本校の生徒が出演しました

12月20日は、武田信玄の父、信虎が、甲斐国の統治の拠点として、躑躅ヶ崎(現 武田神社)に館を構えた日であり、甲府市では、この日を「こうふ開府の日」に定め、さまざまなイベントを開催しています。コロナ禍も落ち着いたので、今年度から、本格的に再開されており、これらのイベントに本校の生徒の出演が相次いでいます。



12月17日には放送委員会、20日には吹奏楽部が・・・

17日(日)に総合市民会館で行われた「甲府夢コンサート」では、海上自衛隊横須賀音楽隊の演奏に先立ち、本校の放送委員会の生徒3名が、「ラーニング・スピーチ」として、本校の歴史、西中学区の歴史(飯田河原古戦場跡、穴切大神社、甲府城など)や「甲府市の歌」について発表しました(上の写真)。

もう一つは、20日(水)に甲府駅北口のよっちゃんばれ広場で行われた記念イベント「こうふ開府の日～甲府から夢があふれる」での吹奏楽部の発表です。このイベントでは、山梨県出身の芸人、歌手、声優の皆さんが漫才や歌唱、トークショーを行ったのですが、そのオープニングに、甲府市の中学校を代表して、本校の吹奏楽部が3曲を披露しました(下の写真)。いずれも数百人の観客を前にして、緊張した様子でしたが、堂々とした発表・演奏で、来場した皆さんから大きな拍手をいただきました。

学校外でこういった形で発表をする機会のはめつたにないので、生徒にとってはかけがえのない経験になったと思いますし、市民の皆さんにも、西中生の姿を知ってもらえるよい機会になりました。

